

Circle

[サークル]

since 2004

[長崎大学龍踊部]**理想の龍を追い求めて
踏み出した一歩**

新調した龍頭

—村木さんは熊本県出身だそうですね。龍踊部に入部したきっかけを教えてください。

村木さん 長崎ランタンフェスティバルで龍踊を見た時に、迫力ある演技に感動しました。長崎大学に龍踊部があることを知り、携わってみたいと思いました。

濱田さん 私は県内出身で、幼い頃から龍踊に憧れていました。長崎大学に入学する際、部活で龍踊ができることを知り、私も龍衆として龍踊に携

わりたいと思いました。今年の長崎くんちで踊町の一つになっている筑後町の奉納踊りは龍踊なんです、そこに龍踊部の仲間と一緒に出演させていただきます。一昨年は村木先輩も五嶋町の龍踊に出演されたんですよ。

—龍踊部から長崎くんちに出演する、新しい伝統が出来つつあるようですね。昨秋、龍頭を新調したと聞きました。

村木さん はい。自分たちがカッコいいと感じる龍を造りたいという思いから、私が2年生の時に計画を始め、調整を重ねた結果、長崎くんちの龍を製作している方に造っていただくことができました。

濱田さん 胴の部分は先輩から受け継いできたものを再利用しますが、傷んだウロコは張り替えをしました。過去には大学近くのホールを借りて、ウロコの取り付けをしたと先輩から聞いたことがあります。私

たちも手作業で張り替えをしてみ、先輩方の苦勞が分かりました。しかも胴の本体から造るとなると、布の裁断や棒を通す穴を空ける作業もあるので、当時はもっと大変だったと思います。

—本学の入学式で新しい龍がお披露目されましたね。

濱田さん はい。理想の龍を使って出演できることはモチベーションにつながりますし、やる気が出ます。長崎の龍踊はカッコいい。そう思ってもらえる演技をしたいという気持ちが強くなりました。

—村木さんは、これから龍踊部を担う後輩の皆さんにどんな言葉を伝えたいですか。

村木さん 私たちの代は、龍頭を造り替えたり演技構成を変えたりする中で、意見が食い違うことがありました。これからの、意見がぶつかることは

住吉まつりなど、長年お世話になっているお祭りに加えて、今年1月には、長崎で開催された「リソなグループ B.LEAGUE ALL-STAR GAME WEEKEND 2026 IN NAGASAKI」にも出演させていただきました。



部長の濱田尚平さん(多文化社会学部3年)(左)と前部長の村木哲成さん(環境科学部4年)。

もちろんあると思いますが、お互いが言いたいことを言い合える環境をつくって、一つの方向に向かってほしいと思います。—生き生きと躍動する龍を表現するためには、チームワークが大切ですからね。

濱田さん はい。練習方法や演技内容など、この先私が引退した後でもしっかり受け継いでもらえるように体制を整えていきたいです。歴史ある長崎の伝統芸能に携わる立場として、責任と覚悟を持って龍を振り続けたいと思います。

創部年：2004年(平成16年)

部員数：27人

活動日：水曜・金曜・土曜



これまでは紙製のウロコを結束バンドで取り付けていましたが、今回は長崎くんちで使われている龍と同じように、ウロコ一枚一枚を糸で縫い合わせる手法を取り入れました。



龍踊部の皆さん。

長崎くんちでもおなじみの伝統芸能「龍踊」を市内各地の祭りやイベントで披露しています。新しい龍頭は勇ましい表情が特徴。

卒業生から
後輩の
皆さんへ

川越史夏さん 2017年卒業

龍を通じて交流が続く、それが龍踊部の魅力です

龍踊部設立のきっかけは、水産学部の学園祭「鴻洋祭」に龍踊を招いたことだと聞いています。鹿児島県出身の初代部長が「私たちもやってみたい」と奔走されたそうです。

大学を卒業した後も仲間の結婚式など、機会があるたびに龍踊を披露しています。こうやって長く演技にかかわることができ

ますし、元部員同士で年齢の垣根を越えて交流が続けられることが龍踊部の魅力だと思っています。

龍頭は部設立以降、約10年間隔で新調されてきました。今回、村木君たちの強い想いで、代々受け継いできたものから表情が変わった新しい龍頭が生まれました。そのことを初代部長に

報告すると「彼らがやりたいと思いい、自主的にやるのはいいことだ」と応援してくださいました。これからの後輩の皆さんには、改善点があれば見つけて対処し、良いところはどんどん伸ばして行ってほしいと思います。私たちは龍踊部の存続を願う仲間ですから、困ったことがあればいつでも力になります。

龍踊部の
情報は
こちらから！

X



Instagram